

実践記録

62

シリーズ

民具の保存を！ ～伝統継承教室の開催～

新潟市黒埼地区公民館 主査 大野 耕 治



文化祭出展風景

1 はじめに

当公民館のある黒埼地区（旧黒埼町）は平成13年1月1日、平成大合併の先陣をきって新潟市に合併した。人口約2万6千人の新潟（蒲原）平野で、交通の要衝地でもある。

黒埼インターから北陸自動車道が関西へ、関越自動車道が関東へ、磐越自動車道が福島へ、東北自動車道が山形へそれぞれ延びている。

また、国道8号新潟バイパスなどの交通網の結節点であり、流通業務の拠点となっている。さらに住宅地の開発が急速に進むなか、平成3年に大型観光施設「新潟ふるさと村」が国道8号と大河・信濃川の間にオープン、その周辺は大型店舗や、サービス産業の進出で環境の変化が著しいところでもある。

2 黒崎民具保存会

黒埼地区南部の農業振興地域では、昔から使ってきた農民具等を伝承しようと昭和47年ころ黒崎民具保存会が発足した。

保存会では作っているものは、わらを材料としたわらじ、草履、メ縄、釜敷、猫ちぐらなど、竹を材料としたほうき、竹とんぼ、かご等がある。

子どもたちとの世代間交流を目的として、地域の小学校児童を対象に竹トンボ作りの指導にも出かけている。小刀の使い方に悪戦苦闘する子どもも大変だが、それを指導する方も大変と察する。それでも、何よりも出来上がった時の子どもたちの感激した様子や、竹トンボを飛ばして喜び勇んでいる姿を見ると、指導した自分たちのほうが嬉しくなるとのこと。

保存会では夏の「黒埼まつり」や秋の「黒埼地区文化祭」には、作品の展示・販売の他、竹とんぼ、草履

作り等の実演も行い、来場者には大変好評である。

昔からの民具を伝承するだけでなく、年に数回研究会を開いてアイデアを出し合い、改良を重ね新しい民具民芸品作りに研鑽している。

親睦と融和をモットーに毎年研修旅行を実施、旅先での民芸品やお土産コーナーの品々の研究には余念がない。例えば、枝にバランス良くとまったトンボやミニ門松等があり、作る皆さんにとっては趣味と同時に生きがいでもある。

3 「伝統継承教室」開催

そんな保存会の力を借りて平成13・14年度に黒埼に伝わる民具を地域に伝えようと「伝統継承教室」草履作りを開催した。

指導者は黒崎民具保存会の人たちに依頼、大人を対象に募集したところ、20代から60代の男女26人が参加した。

我々の思いとは違って参加者に黒埼地区外の人が多く、関心の高いのには驚かされた。



教室開催状況一縄ない



教室開催状況一草履づくり

初日はわらを編んで長さ2メートル位の縄にすることから始まり、わらを編んだことのない人は悪戦苦闘2時間でようやく完成し、それだけで感激した人もいた。個人差はあるものの2回目から参加者全員が草履作りにとりかかり、縄を引っ掛けて草履を編みこむ「のめしこき」という道具を使って、指導を受けた。時間の経過とともにだんだん草履の形に出来上がってくると、参加者一同

に感激の声が上がった。

最終4回を終えるころには、全員が一足の草履が出来上がり、物を作る喜びとともに、出来たという達成感で満ちあふれていた。

4 参加者のアンケートから

○初めて草履作りを体験しました。

先人たちの知恵にただ感心するのみです。またの講習を楽しみにしております。

○前からわら細工に興味を持っていました。こんな機会を待っておりましたので市政だよりで見つけすぐ申し込みました。夢中になった毎回の2時間、皆さんと仲良く楽しい4回を過ごさせてもらいました。

○日本人にとって、お米のもととも言えるわらに触れることが出来てとても良かったと思いました。初めての体験でしたがこれからも忘れずに、有意義に活用したいと思います。

5 講座を終えて

今日、資源の大切さや環境問題を思うとき、米を収穫した後のわら、その「1本のきゃしゃなわら」の集まりが様々な形に変わる。

太古の昔から伝承されてきたこの素晴らしい知恵という文化を無くしてはならないと思う。

2回の講座の参加者26人の内、12人がもっと色々な民具民芸品を習い、作りたいと「黒崎民具保存会」に加入した。

同保存会は、会員の平均年齢が76歳を過ぎ会員は年々減少、後継者対策が急務とする中で新会員、しかも若い人たちが加入したことで活気が戻ったと会長も喜んでた。

時代の流れがどう変わろうと地域の文化を大切にしながら、さらに特色ある黒埼地域づくりを目指し、支援したいと思っている。